

Now

Vol.25

2025.3.1発行

特集：継続

公益社団法人 三田市シルバー人材センター

結構 手間暇かかったけど



般若心経刻印(ゴム版)

修行と言うほどでもないか…

子どものころに

地元の商店会で買い物したら

切手みたいなスタンプシールをもらってた

一枚の時もあれば十枚の時もある

袋にいっぱい溜まったら

チラシの裏に 洗濯のりを塗って

おばあちゃんと一緒に貼りまくる

どこまで貼れるか

チラシ何枚分になるか

コツコツためたモノが形になってく面白や
きれいに貼れたらなお嬉しい

全部貼れたらそれを持って

近所のお店でお菓子を買ってもらおう？

あわてて丸めて持って行こうとしたら
まだのりが乾いてないと怒られた



継続は、人柄なり…

皆さんは、永年意識して続けておられることはありますか？

日記をつけたり、家計簿をつけたりと、日々の記録もあれば、これまで訪れたお店や、鑑賞した映画作品のリストをその都度記録したり、お気に入りの器や、装飾品をコレクションして、最初は少しだったのに、気が付いたらとんでもない量になった、という方もあるかも知れません。

趣味でスポーツや、絵画、音楽、読書を永年楽しまれていたり、健康のためのジョギングや、カロリー計算をされた食生活など、ご自身の健康のために続けられていることもあるでしょう。

中には、「三日坊主で全く続かない」という方でも、知らず知らずのうちに積み重ねられていることがあるかも知れません。



例えば、新聞を毎朝隅々まで読む。好きな野球チームを毎年応援する。初詣は決まった神社にお参りに行く。半年ごとに旧友と飲み会をする。など続ける間隔は毎日だったり、年に1回だったりと様々かも知れませんが、「そう言えば、もう何十年も続けているな〜」という事が、一つや二つはないでしょうか？

永年続けるという事は、根気とパワーがいることで、それでも続けていられるのは、それに興味があるか、性に合っているか、楽しかったり、嬉しかったり、納得できる結果を得たりと、自身に得るものがそこにあるからだと思います。

当初は、「先が長いな〜」とか、「やっても無駄かな〜」と、嫌々始めたことでも、思っていた以上に成果や結果が出たり、人から評価されたり、信頼関係が築けたりすると、更に続ける気持ちが湧いてきて、続けたことが決して無駄にはならないと思います。

ベテランの職人さんには、仕事や作品に人柄が出るという事をよく聞きますが、職人さんでなくても、知らず知らずに何十年も続けていたということは、それはその人の人柄、人生の集大成なのかもしれませんね。

積み重ねた小まめな記録や、お好きな本や映画、音楽のジャンル、野球観戦時の応援スタイル、食生活改善にひた向きの姿勢等が、日ごろから周囲にあふれ出し、本人が気が付かないうちに、人柄となって伝わっていることも多いのではないのでしょうか。



多彩な趣味と 父の教え

若い頃に父親から、人と会話する「ツ」は、「挨拶」「大声」「トンチ」が大事と教わったと言う岡本英幸さん（70歳）に、何か若い頃から続けられていることはありませんか？とお尋ねしたところ、開口一番「晩酌！」と明るい笑顔で答えられました。



更にお伺いすると、釣りも永年やっているし、定年後はほぼ毎日、冷蔵庫の中を見て何ができるか考えて、料理を作っておりますとのこと。

車も好きで、かれこれ10台乗り継がれていて、特に電気系で新たな機能を装備した車が出ると、興味をそえられること、家族が増えたり、用途によって、スポーツクーペやワンボックスカー、コンパクトカーに軽自動車と乗り換えられたそうです。

お子さんが小さい頃は、ワンボックスカーでキャンプに行く機会も多く、キャンプ用品にもいろいろこだわって買い足される他、必要な物は自分で作る主義だそうで、様々な電動工具を



揃えては、自宅に作業場を増築するほどの凝り性だそうです。

そんな岡本さんの若かりし頃の様子を伺うと、高校時代は、電気系の学科がある高校に下宿しながら通われていたそうですが、実は学業よりも鯛焼きのバイトに明け暮れる日々だったそうで、テキ屋の親方からは、全国どこでも通用すると太鼓判を押されたそうです。

無事に高校を卒業され、大手電機メーカーに就職し、ビデオデッキの修理部門に就かれますが、持ち前の器用さで、入社2年目には、社内の技能大会の全国大会で優勝し、周囲を驚かせたそうです。

そのおかげで、ほとんど残業をすることなく帰宅されたことから、仕事のオン、オフが明確で、休日は好きなことに没頭でき、趣味の幅を広げられたのではないかと思います。

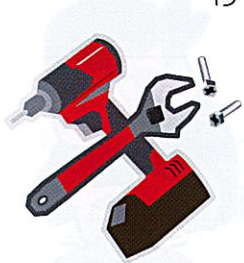
退職後は、地域の人との繋がりを大事にしようという思いで、シルバー人材センターに入会され、現在は、ダム周辺の巡回業務や、竹炭作り、草刈刃の研磨などで活躍されていますが、それでも、モノ作り

や機械いじりを発揮されているようです。

手先の器用さが、仕事や趣味にも大いに影響しており、職人気質な性格が伺えますが、高校時代に鯛焼き屋を任されたことや、クレーム処理の部署で様々な対応をされたこと、最後に学生時代の飲み友達が多いことなどから、若い頃から、人とのコミュニケーションを大事にされていたことも伺えます。

それは、父親から教えられた会話の「ツ」を、常に心がけておられたことが、岡本さんの人柄となって現れたからではないかと思います。

「ちよつとした会話でも、トンチの効いた話で相手を笑わせたほうがええやろ。」：と言う岡本さんの頭の中は、まだまだ錆びずに、回転し続けることでしょう。



家族で繋ぐ酒造の歴史

のどかな田園風景の地に、立派な茅葺屋根が印象的な岡村酒造場は、三田市内で唯一の酒造蔵で、明治22年（1889年）から創業し、130年余り酒造りを継続しておられるその伝統について、お話を伺いました。

現在6代目代表となり、杜氏もされている岡村 理恵さんのお話によると、岡村酒造場は、ほとんどの作業を家族や地域の方で行い、当初は醤油造りをされていたのですが、2代目から酒造りへと変わられたそうで、当時は他にも数件の酒造蔵があったのですが、今では岡村酒造場だけが酒造りをされています。

先代の四女となる理恵さんが、6代目として家業を継がれたのが約2年半前で、そのきっかけをお伺いしたところ、幼いころから酒蔵内での作業を手伝ったりするうちに、徐々に興味を持つようになり、東京農業大学で酵母菌や発酵の研究に励まれて、酒造りに携わるようになったとのこと、図らずも幼少のころから、後継者育成が始まっていたのかも知れません。



永年培われている酒造りの

原料には、地元へのこだわりがあり、重要なポイントとなる水は、この地域の水を使用し、酒米は、山田錦も使用されますが、関西では珍しい「五百万石」を、自家田で田植えの段階から栽培されています。

古代米の赤米は、他の品種と混同しないように、丁寧に刈り取り、「いなぎ」で天日干しの後、脱穀されるという手間のかかる作業で、人手を必要とする作業では、家族や地域の方、ボランティアさんも参加されます。



通年で、大量に製造販売される大手メーカーとは異なり、毎年収穫した量の酒米を原料にして、10月頃から仕込みの準備をはじめ、12月上旬には新酒が出来上がり、その後熟成させつつ販売するという、1年毎の工程で造られるため、その年の気候や、蔵に住む酵母菌によって風味も変化するそうで、常連のお客さんから感想を聞くことも楽しみのひとつであり、酒造りの励みとなっているようです。

ユネスコの無形文化遺産に伝統的酒造りが認定されたことや、SNSの効果などにより、

遠く離れた国内外からの購入があったり、古代米の「赤米」とワイン酵母で、微発泡のお酒を造られたりと、新たな販路や挑戦にも期待されるそうです。

また、母屋の1階では試飲ができるほか、通いの徳利や、木製の圧搾機をはじめとする昭和時代の道具類、駕籠や屏風など多くの物品が展示されており、歴史を感じられます。

更に、店舗や、隣接する竪穴式住居を模したカフェに展示してある古布絵は、理恵さんが古布を使って、周辺の風景を描いた逸品で、繊細で緻密な作業の繰り返しで想像されますが、酒造りにおいてもコツコツと、地道な努力を惜しまれない人柄が、作品からも伺えます。

家族、地域に支えられ、酒造りの伝統文化を守り続ける中、7代目となる後継者も、同じ道を歩まれているようで、岡村酒造場の歴史は、羽束川の流れとともに、まだまだ継承されていきます。



ちゅーと半端だけれど… コツコツ コツコツ 37年

三田市シルバー人材センターが1988年10月に発足して、只今37年目。
時代や、働く会員さんは変わっても、永年続けているお仕事があります。

市営駐輪場管理業務 1989年～

JR三田駅前に最初の市営駐輪場が開設されたのが平成元年5月でした。当時は12名の会員が3交代で就業し、今と同じく定期と一時券を発行して管理業務を行っていました。

最盛期には9ヶ所の駐輪場を管理し、多い所では1日1,000人近い利用者へ対応するため、日々苦労と努力の連続です。

今では、有人管理の駐輪場は3ヶ所に減ってしまいましたが、先輩会員から引き継いだサービス精神で、市民の皆さんから愛される駐輪場となるよう努めます。



障子・襖張替え作業 1998年～

ご家庭からの依頼の増加に伴い、講習会で技術を習得した会員数名で、最初の作業チームが作られました。

当時は、技術が未熟な点もあり、クレームもしばしばありましたが、会員同士で指導し合うなど、日々の努力で技術も向上していきました。

その後、就業会員は何人も入れ替わっていきますが、技術と供に作業に真摯に向き合う精神も受け継がれ、現在も多くの依頼にお応えし喜ばれています。



継続は人生なり

時代ごとで生活の風景は変わり

今は夫と猫の三人暮らし

「猫はかすがい」で

夫婦はとりあえず円満

大切なものは生活の一部となり

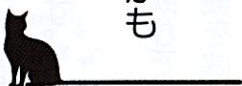
当たり前のように一日が終わる

新しいことにもちよつと頑張つて

平凡だけど

シルバー世代って案外いいかも

健康第一で人生継続中



コツコツ築き上げて来られた、技術、経験、知識、趣味...

お仕事で活かしてみませんか？

シルバー人材センターは、三田市内にお住まいの60歳以上で、健康で働く意欲がある高齢者の方にご入会いただき、それぞれの希望に応じたお仕事を紹介するところです。

「ハローワーク」でのご紹介や、人材派遣業とは違い、生活を支えるような収入を得ることはできませんが、お小遣い程度の収入を得たり、地域社会への貢献や、ご自身の健康維持・生きがい作りとして、お仕事していただくことを目的としています。

入会には、「入会説明会」への参加が必要で、シルバー事業にご理解いただいたうえで、ご入会いただくこととなっています。

出来る仕事、やりたい仕事がきっと見つかります！

入会説明会のご案内

毎月第2金曜日 13:30～

当センターにて開催

前日までに要事前予約

お電話でOK!



TEL: 079-564-7501

お仕事のご依頼は...

ご家庭内で...草引き、植木剪定、散水、簡単な修理、家具の移動など。

事業所、工場などで...新たに従業員を増やす程でもないようなお仕事、清掃作業や、梱包作業、検品作業など、主に反復性のある作業又は、会員がスケジュール管理できる植栽管理作業など。

ご依頼に応じて、下見、見積をさせていただきます。
お気軽にご相談ください。



詳しい内容は、公式ホームページから「お仕事の依頼」をご覧ください。 HP QRコード→



公益社団法人 三田市
シルバー人材センター
公益社団法人 三
田市のシルバー人材セ



公益社団法人 三田市シルバー人材センター

〒669-1323 三田市あかしあ台5-32-2

TEL : 079-564-7501 FAX : 079-553-1300

e-mail : sandasilver631015@sandasc.org

